

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	特別支援教育						授業形態	講義	
科目コード	421120	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	瀬戸口 裕二								
授業概要	<p>本授業の目的は、教育者（中学校、高等学校）に求められる特別支援教育の基礎的な専門性を養うことである。</p> <p>特別支援学校での指導経験を活かし、本授業では、ICFに基づき「障害の捉え方」を学んだ上で、様々な障害の理解とともに、その指導のあり方について学んでいく。</p>								
関連する科目	LD・ADHD等教育総論 自閉症等教育総論 知的障害児の心理と発達支援								
授業の進め方 と方法	<p>基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開する。また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図る。</p> <p>本授業は、質問や協議機会が多様に用意されています。また、授業中に様々な情報を検索したり確かめたりすることが推奨されています。発見された事実や協議された内容については広く共有される機会が保障されています。</p>								
授業計画 【第1回】	障害について								
授業計画 【第2回】	<p>障害の捉え方 ICFを踏まえた障害の捉え方について学ぶ。</p>								
授業計画 【第3回】	視覚障害								
授業計画 【第4回】	聴覚障害								
授業計画 【第5回】	肢体不自由								
授業計画 【第6回】	知的障害								
授業計画 【第7回】	言語障害								
授業計画 【第8回】	発達障害-L D-								
授業計画 【第9回】	発達障害-A D H D-								
授業計画 【第10回】	<p>発達障害-A S D-</p> <p>発達障害をはじめとする様々な障害について理解し、その支援のあり方について学ぶ。</p>								
授業計画 【第11回】	出生前診断								

授業計画 【第12回】	家庭及び関係機関等との連携
授業計画 【第13回】	校内委員会と特別支援教育コーディネーター
授業計画 【第14回】	個別の教育支援計画と個別の指導計画
授業計画 【第15回】	通級による指導と特別支援学級による指導 家庭や関係機関との連携及び特別な支援を必要とする子どもの支援方法について学ぶ。
授業の到達目標	(1) ICFに基づき、障害の捉え方を説明することができる。 (2) 発達障害をはじめ、様々な障害について理解し、支援のあり方について考えることができる。 (3) 特別な配慮を要する子どもの教育の実際について、現状を理解し、課題を考えることができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	毎回の授業でグループディスカッションや発表などの多様な授業形態を展開します。そのためには、授業以前の準備が求められます(30分程度)。
授業時間外の学修 【復習】	前時の学習のポイントについて、参考書やインターネット情報等を活用して再確認したり、検索された情報を下にして自らの学習を拡大したりする(30分程度)。
課題に対する フィードバック	小グループごとの発表課題は、自己評価や相互評価が得られる機会をもち、補則解説や教員による評価をフィードバックする。
評価方法・基準	授業での発言や提出レポートの内容(40%)、および最終試験またはレポート(60%)で総合的に評価する。最終試験においては、事項の暗記よりも、特別支援教育に関する理解の程度や問題意識を評価する。
テキスト	
参考書	国立特別支援教育総合研究所(2020)『特別支援教育の基礎・基本2020』ジアース教育新社(2,700円+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	特別支援教育						授業形態		
科目コード	421120	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	野村 宗嗣								
授業概要	特別支援教育について、まずは障害というものの理解や、学校教育における理念と制度、歴史の変遷を学ぶ。それをもとに特別支援教育を支える仕組みや、子どもの発達と支援について学ぶとともに、インクルーシブ社会形成に必要な知識の獲得と実践力の育成を目指す。								
関連する科目	障害児教育入門								
授業の進め方 と方法	事例等から障害のある児童生徒の指導の実際を学ぶとともに、特別支援教育の歴史やユニバーサルデザインにおける指導の実際から、インクルーシブ社会の形成に向け、基礎的な知識の獲得と実践力の育成を目指す。また、外国籍や貧困を背景にした子どもの教育や、医療的ケアが必要な児童生徒の指導の実際についてを学ぶ。								
授業計画 【第1回】	第 1回 特別支援教育の理念と制度								
授業計画 【第2回】	第 2回 特別支援教育の歴史								
授業計画 【第3回】	第 3回 特別支援教育を支える仕組み								
授業計画 【第4回】	第 4回 子どもの発達と支援の実際								
授業計画 【第5回】	第 5回 自立活動の指導								
授業計画 【第6回】	第 6回 視覚・聴覚障害児の理解と支援								
授業計画 【第7回】	第 7回 言語障害児への理解と支援								
授業計画 【第8回】	第 8回 ユニバーサルデザインにおける実践例								
授業計画 【第9回】	第 9回 「気になる子ども」の理解と支援								
授業計画 【第10回】	第10回 キャリア教育の理念と指導の実際								
授業計画 【第11回】	第11回 外国籍や貧困を背景とした子どもの教育								

授業計画 【第12回】	第12回 重度重複障害児の教育と医療的ケア
授業計画 【第13回】	第13回 病気の子どもの理解と支援
授業計画 【第14回】	第14回 教育と福祉・医療との連携
授業計画 【第15回】	第15回 特別支援教育の課題と展望
授業の到達目標	特別支援教育に必要な知識と支援について学ぶ。特別支援教育の基礎的事項の学びを踏まえ、①多様な障害に応じた子どもの理解 ②ひとり一人の実態に応じた支援 ③インクルーシブ社会の形成に向けての連携を学ぶ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	【予習】次時の学習に向け提示される課題や配布される資料等を読み、講義内容の概略を理解するとともに、用語等の意味を調べる。 (1.5時間)
授業時間外の学修 【復習】	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理する。授業から提示された課題等に対して、自分なりの対処方法や見解をレポートにまとめる。(1.5時間)
課題に対する フィードバック	毎回の要点整理のレポートと課題に対するレポートは、次時の授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	以下3項に基づき、評価する。 ①要点整理のレポート提出：20% ②定期試験：60% ③課題レポート：20%
テキスト	使用しない。
参考書	特別支援教育—共生社会の実現に向けて—ミネルバ書房
備考	